



2024年11月15日(金)、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン (GCNJ : Global Compact Network Japan)は、国連大学本部ビル ウ・タント国際会議場 (東京都渋谷区)にて、サステナビリティ社会の実現に向けた企業の「変革」をテーマとした年次シンポジウム『ポスト産業資本主義社会への変革～新たな企業経営の在り方～』を開催しました。

左から、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 吉高まり氏、日本郵船株式会社 筒井裕子氏、神奈川大学特別招聘教授 岩井克人氏、日本電気株式会社 帯刀繭子氏、不二製油グループ本社株式会社 泉晶子氏



第一部では、基調講演として、神奈川大学特別招聘教授 岩井克人氏より、会社とは何かという本質的な問いから企業経営者の役割やその構造・企業の目的といった内容を中心にご講演いただきました。

第二部のパネルディスカッションでは、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 吉高まり氏、日本電気株式会社 帯刀繭子氏、不二製油グループ本社株式会社 泉晶子氏にご登壇いただき、GCNJ 理事である日本郵船株式会社 執行役員の筒井裕子氏にモデレーターを務めていただきながら、この VUCA の時代でビジネス機会をどう作り出しているのかポスト産業資本主義を見据えて、今まさに変革に取り組んでいる企業の視点と、それに対する企業価値を評価する投資家の視点で議論いただきました。

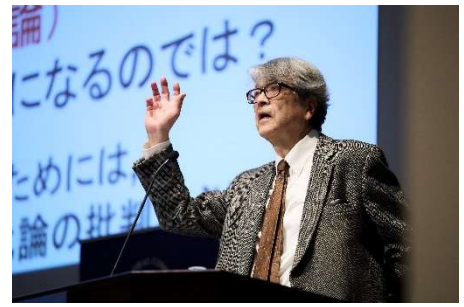
第一部 基調講演

第一部の基調講演は、「会社の新しい形を求めてーなぜミルトン・フリードマンは会社についてすべて間違えていたのか」と題し、神奈川大学特別招聘教授の岩井克人氏にご登壇いただきました。



アメリカの経済学者であり、20 世紀の自由主義経済学の代表的な思想家の一人であるミルトン・フリードマン (1912-2006) がニューヨーク・タイムズマガジンに「会社の唯一の社会的責任は利潤を追求することだ」と主張し、経営者が社会貢献のために会社資金を使うことは、株主のお金を盗む「泥棒行為」であると批判したことについて、この考え方は理論的に誤りであることを、会社や経営者とは何か、構造を解き明かしつつ、ご説明いただきました。

講演前半では、ミルトン・フリードマンの「会社の資産は株主の所有物」という主張は、「個人企業」と「法人企業」を混同していることが問題であると述べ、個人企業と法人として会社の違いを大変分かりやすくご説明をいただきました。また、会社（法人企業）とはモノでもあり、ヒトでもある 2 つの性質を同時に備えていると存在であり、近代社会の原理を破っている摩訶不思議な存在のように見えるが、この 2 階建て構造によりミルトン・フリードマンの主張する「CSR 窃盗論」が理論的な誤謬であることを述べられました。



講演後半では、「経営者代理人論」への反論として、経営者が法人としての会社に必要な存在であること、「信任受託者」であることを浄瑠璃人形と浄瑠璃遣いに例えてご解説いただきました。また、経営者の「忠実義務」に関するお話では、資本主義は利益追求社会であるにも関わらず、その中核となる会社の経営者は倫理的な義務を負うことから、資本主義の中心には「倫理」が存在し、「倫理」によって支えられている、という逆説を語られました。

最後に、Google が、世界中の情報を整理して人々がアクセスできるようにすることや従業員に自由な時間や信頼できる同僚など、「おカネで買えないもの」を提供することによって、長期的な視野のイノベーションへと繋がり、結果的に資本主義的に成功したという「逆説」のお話や、ウォーレン・バフェットの短期志向の「物言う株主」に「物を言わせない」株式構造をご紹介され、Google やウォーレン・バフェットの事例は、現代の企業運営において、新しい指針になるのではないかと示し、基調講演を締めくくられました。

第二部 パネルディスカッション

第二部は、日本郵船株式会社 ESG 戦略副本部長 執行役員 筒井裕子氏をモデレーターに迎え、日本電気株式会社 コーポレート・シニア・バイスプレジデント兼マーケティング & アライアンス推進部門長の帯刀蘭子氏、不二製油グループ本社株式会社 ESG 部門 サステナビリティ推進グループリーダー シニアマネージャーの泉晶子氏、そして三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 フェロー（サステナビリティ）の吉高まり氏にご登壇いただき、それぞれの立場からポスト資本主義社会へ求められる経営とアクションについて議論いただきました。



帯刀氏からは昨今注目されている AI 技術について、生成 AI や医療支援 AI などの事業紹介とともに、AI ガバナンスの重要性が述べられ、リスクマネジメントに関する具体的な取り組みをご説明いただきました。サステナブルな未来には、企業として技術進化が社会に与えるインパクトに意識を高める必要があると語られました。

泉氏からは、「サステナブルな食の未来に向けたステークホルダーとの共創」をキーワードに、不二製油グループのサステナビリティ経営への変革ポイントと、パーム油のサステナブル調達の実践事例についてご説明いただきました。バリューチェーン全体をサステナブルに変革していく仕組みや川中にある自分たちの役割、展望についてお話いただきました。



吉高氏からは、国際的なサステナビリティ関連の潮流として、国連責任投資原則の総会や生物多様性 COP16 での議論内容をご紹介いただきました。実際に会場へご参加され感じられた ESG の注目ポイントや新たな議題をその背景と共にご説明いただきました。また、アメリカの政権が変わり、もし今後 ESG が停滞したとしても、是非チャンスと捉えて情報開示を積極的に進め、日本企業の価値を発信してほしいと述べられました。

後半には、変化の激しい現代社会でグローバルに展開する企業にとって、どのようなビジネスチャンスがあるのかについて、企業と投資家の観点から、会員の皆さまの今後の取り組みに大変参考になる最新情報や好事例をご紹介いただきました。



当日は会場およびオンラインから多くの方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

以上